

会 議 名	第2回 MINATO まちなかコンサート企画・運営等業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年2月14日（金曜日）午後4時30分から午後5時10分まで
開催場所	港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室
委 員	出席5名 ・田中 真実（委員長） ・文化芸術事業連携担当部長 横尾 恵理子（副委員長） ・梶 奈生子（委員） ・澤藤 歩（委員） ・教育委員会事務局教育推進部生涯学習スポーツ振興課長 中林 淳一（委員）
事 務 局	地域振興課文化芸術振興係
会議次第	1 開会 2 第一次選考結果について 3 第二次選考について 4 第1回選考委員会議事録について 5 閉会
配付資料	〔席上配付〕 次第 資料1 第一次審査集計結果 資料2 第3回選考委員会進行スケジュール（案） 資料3 第二次審査の実施に関する留意事項（案） 資料4 第二次審査採点基準表（案） 資料5 第1回選考委員会会議議事録
会議の内容	
事務局	【1 開会】 （事務局より配布資料の確認）
事務局	【2 第一次選考結果について】 資料1について説明
委員長	審査にあたり、評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いします。
B委員	A事業者については、全体的に提案を求めている項目への記載が不十分な部分があり、提案に対しての記載が抽象的な部分があった。求めている水準には足りていないと感じた。B事業者については、全体的に港区の施策の方向性や取

	り巻く環境をよく押さえている提案だと思った。特にまちなかコンサート、アウトリーチ事業の企画は港区の特色を生かした企画立案になっており、テーマも多角的である。内容も斬新で、配信の部分についてもアーカイブで実施するという丁寧な姿勢が伝わってきた。一方で、少し気になった点としては、実施体制が3名で他者に比べて少ないと感じた。また、アウトリーチにおいて障害者という視点をどう考えているのか掘り下げたいと思った。C事業者については、基本コンセプトが分かりやすく、まちなかコンサートを世界の音楽という切り口で企画している点は面白い。一方で、港区ならではの特色や施策との関連性が見えないので、それが見えるとより良いものになったと思う。最後にD事業者については、全体的にエンタメ力や情報インフラ力の高さが強みだと思った。また、アーティストとのつながりを活かした具体的な提案が印象的だった。一方で、港区ならではの特色や施策という視点は無かったと思うので、そこはもう少し聞いてみたい。
A 委員	まず全体として、障害者や多様化に関する対応がどの事業者も薄いという印象がある。その前提の上で、まずA事業者についてはB委員の講評と同じく、求められる記述が抜けている点はマイナスだと思った。予算計上はされているが、該当する記述が無いなど片手落ちになっている。また、内容が子供向けに寄りすぎている点も気になった。B事業者については、港区の文化面における特徴や現状を正確に把握しているという印象がある。提案内容に関しても多種多様で独創性もあり、この点については非常に素晴らしいと感じた。一点気になったことは、配信の中で唯一アーカイブを打ち出しているが、曲によっては著作権のハードルが高いので、そのあたりをどう考えているかが気になった。C事業者については、こちらも港区の文化面の特徴は捉えていると思ったが、介助や手話通訳といった面が欠けていると思った。最後にD事業者については、すでにプロのミュージシャンを内々にオファーしており、そういった意味でミュージシャンを招へいできる企画力は良いと思う。
C 委員	全体的に企画提案書を書き慣れているところと書き慣れていないところの差がすごく出てしまったと感じる。A事業者については、目的や課題感の認識が薄いと感じた。企画を書き出しているが、それをどう実現するのかが具体的に書かれていない。それぞれの企画自体は魅力があるが、個性的な取組なだけに関連性を見出しにくかったのが残念である。また、会場に対する提案は自社所有のライブハウスの記述しか無かったので、もう少し港区のことを考えてもらえると良かった。B事業者については、全体的に書き慣れていると思った。国や都のプランからきちんと落とし込み、港区の課題にも言及しており、そこに向

	き合って企画が立てられている。かつ、その課題を視野に入れた様々な企画に魅力を感じる。今後の事業展開にあたっては、それぞれの事業の関連性がもう少し見えてくると良い。C事業者については、書き慣れていないと感じた。具体的な進行スケジュールの記載が一切無いことや、情報危機管理については、何か起こったときの対応策は書いているが、事前の危機管理や防止策の記載が無かったのはマイナス要因と感じる。それらを踏まえた企画であれば良かった。それぞれの企画には魅力があるので、そういった意味では残念だった。最後にD事業者については、全体的にはきちんと書けていると思う。港区にゆかりのあるアーティストは魅力的だが、数年で実施していくということを考えた時に、歌のみだと発展させることが難しい。一つのジャンルというよりも、つながりのある企画を展開してもらえると良かった。全体的には良かった。
D委員	子どもが対象になっている企画を見ると、足を運びにくい＝子どもという印象になることが残念に思う。そうではない人もたくさんいるし、本当の意味で出かけていくべき先をどう考えるかという話だと思うが、やはりコンサートとアウトリーチにおいては専門性が微妙にずれている。各事業者はコンサートについては何かしらやってくれるとは思いますが、アウトリーチにおいて出かけていく時はどうしても範囲が非常に狭い状況があり、リサーチするにしてももうちょっと細かくやってもらう必要があると感じた。A事業者については、記載が不十分というところもあり、足りないと感じた。また、広報に関しても紙媒体廃止と書いているが、様々なバリエーションを用意しなければ来られなくなる人もいるため、広報全てをオンライン上にあげるのは難しいと思う。B事業者については、国・都・区という形で流れに沿っており、この事業内でやるべきことが明確にされているという印象がある。ロビーコンサートの提案においても、出演者が動かせないのであれば室内を何とかしようとするなど、どこを動かせるかをよく見ていると思った。アウトリーチに関しては、対象者の把握はもう少し今の提案と変わっても構わないと思うので、区との協議の中で調整してもらいたいと思った。配信に関しても、何でもかんでも生配信にすればいいというわけではなく、アーカイブを明示的にした方が、むしろ誰に届けるかと何を届けるかという問題になると思うし、配信中に事故や不具合が起きた時のリスクを考えると無理にやるよりも安全であると思った。C事業者については、目的や課題について書かれているものの、提案事業の中で何を行うのか読み取ることが難しかった。また、企画ごとの関連性についてもう少し記述が欲しい。C事業者のみ具体的な障害者施設名等を入れており、確かに書いてあるだけなのかもしれないが、そこを頑張りたいという姿勢は評価できる。最後にD事業者については、それぞれのプログラムについて名称を付け、ブランデ

	イングしようという気概が感じられた。しかし、まちなかコンサートをどこで実施するかなど、そのあたりの具体性が欲しい。アウトリーチに関しても対象が少しずれていると感じた。これだと共感しづらい部分があると思った。また、B事業者以外については保険の記述が無かった。アウトリーチにおいて、例えば障害者や子どもたちがいる現場に出かけていく時には、保険の対応も少し見ていく必要があると思った。
E 委員	A事業者については、総合的に低い点数をつけることになった。提案書類を見ると、まずロビーコンサートの提案が無いと思った。また、提案されている合唱のメンバー公募は面白いと思ったが、どのくらいの人数を見込んでいるかが分からず、ざっくりとしたスケジュール感だけ示されているので、練習をして本番に持っていくことを考えると見積りが甘いと感じた。B事業者については、全体的に提案の内容も、その提案を実現するためのプロセスも書かれていて点数は高くつけている。背景や現状分析、課題抽出も念入りにされていると感じるし、それを取組の提案にしっかりつなげている点が評価できる。それぞれの事業の狙いや、実現のための手法、工夫もしっかりと練られているように感じ取れたし、他の団体等との連携についてプレゼンテーションで確認できればより良いと思う。C事業者については、一言で言えばA事業者とB事業者の間くらいで、A事業者よりは少し良いかなという点数にしている。少し具体性に乏しい部分が見られたので、B事業者と比較して、提案としての魅力はあまり感じられなかった。例えば、まず区の課題であったり、その解決策として挙げた根拠などが書類からは読み取れなかった。具体性に欠けると思ったので、そういった点をマイナスとした。最後にD事業者について、こちらはB事業者と同様の点数とした。それぞれの提案事業の狙いや内容、あるいはスケジュール感も明確で、実現性が十分期待できる内容になっている。例えばチャンネル登録者数70万人近いという点も、それだけの人数に一度に届けられるというのは、この事業に限らず区の課題となるような発信力は十分にカバーしてくれるのではないかと思い高い点数にした。
委員長	C事業者の採点表の「項番2企画提案の評価 (1) 基本姿勢について ア業務の理解・考え方」において、副委員長が25点、梶委員が10点と3段階の点差があるため、この部分について改めてご意見をいただきたい。
B 委員	C事業者のこの部分が、割とコンセプトが分かりやすく表記されていて、課題を丁寧に捉えているという印象を受けた。しかし、他の委員の意見を聞き、もう一段階点数を下げて良いと感じたため、点数を20点としたい。

C委員	課題の理解については多く書かれているが、それをどう解釈し、何をしたいのかというところまでつながっていないので、ただ単に情報の羅列にしか見えずこの点数とした。
委員長	副委員長が20点、梶委員が10点となり、点差が2段階となったため、これで問題無ければこの点数変更で修正したいが、いかがか。 <異議なし>
事務局	C事業者については、「項番2企画提案の評価（1）基本姿勢について ア業務の理解・考え方」の合計得点が5点下がり、80点となる。そのため合計点は471点から466点に変更となる。総合評価の点数は、現在531点のところから526点に修正となる。
A委員	先ほどライブのアーカイブ化を予定しているB事業者について懸念がある、とお話したが、動画配信方法がリアルタイム配信とアーカイブ配信とでは音楽に関する著作権の手続きの煩雑さが大きく異なる。アーカイブ配信は望ましいと思うが、特に今回は音楽に特化させた内容なので対策が気になる点である。
事務局	今のA委員の意見については、例えば二次審査の際にその点を質問事項として聞いてもらえれば事業者の考えが明確になると思う。 <集計>
事務局	A事業者については修正なしで合計456点。B事業者については修正なしで合計730点。C事業者については、副委員長の点数が当初112点だったところを修正で107点となり、合計526点。D事業者については合計646点。
委員長	一次審査通過事業者について、第1回選考委員会において、一次審査の満点の60%を通過の目安とした。B事業者およびD事業者の得点は一次審査の満点の60%を上回っている。以上のことから、B事業者およびD事業者が二次審査に進むことを決定してよろしいか。

事務局	<異議なし> 【3 第二次選考について】 資料2～4について説明
事務局	【4 第1回選考委員会議事録について】 資料5について説明
事務局	A委員より事前に議事録の修正について意見があった。ランサムウェアの箇所について、具体的な事例を省略した表記に変更したものを作成し、後日各委員に修正した議事録を送付する。 【6 閉会】